

インターバンクの声（2016年9月15日）

昨日、東京市場の午後3時過ぎには103円30銭台まで円売りが進んでいた円相場だが、ニューヨーク市場の終盤には102円20銭台まで円が買い戻され、手掛かり材料に乏しい中で1円以上も円が上昇した。そもそも前日のニューヨーク市場で日銀がマイナス金利の深堀を中心にした追加緩和策を打ち出すとのメディア報道が円売り・ドル買いの一要因になっていたが、東京市場に戻ると、次第にそうした緩和策が実際に円安を促すような効果があるのかといった懐疑的な見方が広がり始めたことも円買いに転じるきっかけになっていた。ニューヨークの朝に一旦103円台に戻るような気配もあったが、ニューヨーク株式にも元気がなく、原油価格の下落や米長期金利も低下に転じたとあって、円買い・ドル売りに傾くのも致し方ない流れだった。この一週間の円相場を振り返れば、およそ高値104円から安値101円までの値動きだ。足元の水準がちょうど一週間の取引レンジのほぼ真ん中とあっては勝負し難い状況だ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。